

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
1 安全・安心まちづくり事業									
1	安全安心まちづくり推進事業	888,000	1,071,000	862,449	誰もが安全に安心して暮らせる「まち」を形成するために、安全安心に関わる様々な分野の団体が加盟している「宮前区安全安心まちづくり推進協議会」を軸として、区民、地域団体、事業者、行政機関等の連携・協働により、防犯、交通安全、防災などの総合的な安全安心のまちづくりを推進し、暮らしやすい環境づくりに取り組んでいく。	様々な機会をとらえて、情報を提供することにより町内会・自治会に限らず、様々な団体にパトロールベスト等を普及させ、地域防犯パトロール活動を推進していく。	新たに30の町内会・自治会等のパトロール団体にベスト、のぼり旗等の支給を行い、地域のパトロール活動のより活性化を図った。区境における高津区との合同防犯パトロールは、日程等の関係で、4月開催にずれ込むこととなったため、宮前区の町内会・自治会単独での開催とした。	地域のパトロール活動は活発になり、防犯に対する意識は高まっている。しかしながら自転車盗難、ひったくり等の軽微な犯罪は、なくなることはない。今後も警察署と連携を図りながら、ベスト等のパトロール用品の提供を行い、地域のパトロール活動に対する支援を続けていく。	地域振興課
2	子ども安全・安心見守り事業 (区民会議課題)	951,000	951,000	641,034	子どもたちの登下校時における安全などを地域社会全体で確保するため、区内の各学校とその保護者、地域の関係団体並びに区民、事業者、警察及び行政が一体となり、次のことを実施する。 1. 子ども安全・安心協議会、連絡会等を開催し、年間の活動方針の決定や、情報・意見交換を行う。 2. 「宮前区子ども安全・安心通信」年2回発行し、区内小学校、町内会等に配布し、広報を行う。 3. 各小学校区子ども安全・安心協議会が実施する「地域安全マップづくり」への支援を行う。	・宮前区子ども安全・安心協議会の総会の開催(活動報告・活動計画) ・情報交換等の連絡会の開催 ・子ども安全・安心通信の発行(年2回) ・各学校での安全・安心の取り組みの報告会の開催(各小学校毎)	3・11の大震災を受けて、子どもの安全・安心に関して、防犯だけでなく防災面の関心が非常に高まっている。連絡会議では、防犯に並び防災面での各小学校区での取組が発表され、有意義な情報交換を行うことができたと共に、子どもの安全・安心を地域ぐるみで守るという目的を再確認することができた。 また、地域で防犯パトロール活動などに携わる方々について、子ども安全・安心通信で紹介することで、多くの保護者や地域の人に、その地道な活動の様子を伝えていくことができた。	今後も子ども安全・安心協議会を通じて、各小学校区や地域の取組の情報交換・共有を行い、各団体の活動の活性化を図っていく。また、協議会の活動の様子や地域での取り組みの様子を、通信で広報することにより、子どもの安全や地域の取り組みに関する保護者や地域住民の意識を引き続き喚起していく。	子ども支援室
3	防災意識普及啓発事業 (区民会議課題)	2,450,000	2,450,000	2,100,525	各種の防災意識普及啓発活動(防災ニュースの発行、防災フェアの実施等)を行い、区民一人一人に防災に関する知識を根付かせことにより、防災意識の向上を図る。 地域で防災活動の中心となる防災推進員の養成を目的とした「防災推進員養成研修」及び養成研修を受講した防災推進員のさらなる知識向上を目的とした「防災推進員フォロー研修」を実施することにより、地域の防災力向上に繋げていく。	各事業実施の際には学校、関係団体等により多くの団体に対して、広報を行っていく。	・防災ニュースを4半期に1回、年4回、まちづくり協議会防災部会と協働で発行することで、区民の防災意識普及啓発を進めることができた。 ・防災フェアにおいては、防災講座、展示実演に加え、南三陸町から語り部の方を迎え、被災地の様子等を語っていただき、災害時の心構えを普及啓発することができた。 ・防災推進員養成研修を行い、新たに38名を宮前区防災推進員として登録した。 ・防災推進員フォロー研修を行うことで、防災推進員の知識を深め、地域防災力の向上を図ることができた。	いつ起きるかわからない災害に備えるために、各事業は継続実施していかなければならない。 また、平成24年度は宮前区総合防災訓練も予定されているため、防災ニュース、防災推進員については、訓練事業とも関連させていくことで、防災意識の普及啓発、及び、地域防災力の更なる向上を図ることが必要である。	地域振興課
2 地域福祉・健康づくり事業									
4	健康づくり支援事業	1,182,000	1,356,000	751,210	健康づくりの取り組み方、健康づくり団体の紹介等を載せた情報紙を発行し健康への関心を高め健康づくりの実践に取り組む人を増やす。 公園体操マップの修正、増刷と宮前区オリジナルストレッチ体操「風の中で」のリーフレットを増刷し、これらを活用し公園体操を区民に広げ「風の中で」を普及する。	健康づくり情報紙は健康づくり推進会議で検討を行い、区民と協働でわかりやすく取り入れられやすい内容を入れて作成する。また、公園体操マップと「風の中で」のリーフレットについても区民と連携をとりながら作成する。	健康づくり情報紙「健やかライフ宮前」を健康づくり推進会議4回、作業部会3回行う中で検討を重ね、健康的な生活習慣の実践を促す内容で1万部作成し区民に配布した。どの世代の方にも共通する健康づくりを紹介したところ、わかりやすいと好評を得ている。また、公園体操マップを修正し3千部増刷、宮前区オリジナル体操「風の中で」のリーフレットを5千部増刷し区民に配布し地域に広めている。	「宮前区民みんなで実践、健康習慣」の普及を更に推進していくために、健康づくり情報紙を健康づくり推進会議で対象や内容を検討し、継続して作成し区民に配布していく予定である。	地域保健福祉課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
3 総合的な子ども支援事業									
5	子育て情報発信事業 (区民会議課題)	1,487,000	1,487,000	1,336,972	①から⑤により、区民が必要とする情報の提供をおこなう。 ①子育て情報誌「みやまえ子育てガイド」とことこの作成と配布 ②「みやまえ子育てガイド」とことこの補完情報誌「かわら版」の発行 ③宮前区子ども子育てホームページと「とことこ」ホームページの管理運営 ④子育て情報掲示板、や情報提供コーナーでの情報提供と管理 ⑤子ども支援室のリーフレットの配布	・「みやまえ子育てガイド」とことこ」を関係機関からの情報提供や、各制度の改正などによる情報の修正を行い、増刷する。また、子育て支援連絡会議の中でかわら版の内容について検討し発行、配布する。ホームページ・掲示板・情報コーナー等の管理運営を行い、正しく必要な情報の提供を行う。	子育て世代の転入者や母子手帳の受給者をはじめ一般の子育て世帯などに対して、「とことこ」・「子育てかわら版」の発行及び「ホームページ」の閲覧、さらに子育て情報掲示板や情報提供コーナー等で広く子育て情報を提供したことにより、宮前区内における子育て世帯の孤立や育児不安を軽減することに幅広く貢献できた。	平成24年度は、子育て情報誌の発行に関連して、最新情報が見れるよう「ホームページの更新」の回数を増やしていくことが課題である。また、平成25年度には、「宮前区子育てガイドとことこ」の大幅な見直しと改訂作業を行う(当初は平成24年度に予定していたが延期になった)ため、平成24年度末までに「とことこ」の改訂委員会を設置する準備をしておく必要がある。	子ども支援室
6	親と子の子育て応援セミナー 開催事業 (区民会議課題)	495,000	545,000	497,409	●親と子の子育て応援セミナー(連続育児講座) 宮前区内で在宅で子育て中の0～1歳児を持つ親子を対象に、8回連続講座を地域子育て支援センターさざめまで2回実施する。 ●親と子の子育て応援セミナー(オープン講座) 今までのセミナー受講者が中心となり、広く子育て中の区民に向けた講座を企画・開催する。	公立保育園、地域子育てセンター、先輩ママ、庁内関係部署と連携・協力し、子育てに関する知識・技術の専門性を活かした連続講座(各8回)を2回実施し、参加者の育児力の向上と参加者同士の仲間作りの支援を行う。 区内の子育て中の区民を対象に地域子育て支援センターを会場にして、土曜日にオープン講座を実施する。	・連続講座を受けることで育児力の向上につながったり、グループワークを通して子育ての情報交換をしたり、悩みを共有することで、育児への不安や孤立感が軽減できた。 ・地域の子育てグループ等への参加によって、親同士の交流が図られ、ボランティア活動や子育てグループの担い手につながった。 ・オープン講座を土曜日に行ったことで、父親の育児参加につながった。	7回の連続講座の内容を検討し、他機関との連携を取った内容を加えて充実させる。OG会はさらなる子育て力のフォローアップと区民を対象にした企画実施を目的に行う。オープンセミナーは土曜日に開催することで、父親の育児参加を促したり、たくさんの区民が参加できるように、子育て支援センターの土曜開所と合わせておこなう。	子ども支援室
7	子ども支援ネットワーク事業 (区民会議課題)	291,000	291,000	146,164	区における子育てを地域社会全体で支えるため、地域の関係者があつまり、様々な子どもに関する情報交換、課題の共有、支援の取り組みなどを行い、ネットワークを強化する。	1子ども支援に係るネットワーク事業 ①関係機関等の代表者による子ども・子育てネットワーク会議の開催(年2回)②実務者による子育て支援関係者連絡会(隔月)転入者向けイベントの開催 活動団体交流会の開催 2. 要保護、要支援児童等ネットワーク事業 ①区内の関係機関、施設、団体等の実務者を対象に会議を開催し、連携の強化、情報交換、学習等を行う。(年3回) 3. 幼・保・小連携事業 ①小学校へのスムーズな移行のため、育ちに不安を持つ保護者の相談会の開催 ②相互理解を深めるために、保育園実習や小学校訪問の実施 ③関係担当者等の連絡会の実施	1・2・3の取り組みにより区内の関係機関の連携が強化され、情報の交換、共有、協力体制の継続が行われた。	子ども達が抱えている問題は多様化し、1つの機関で解決するには難しく、関係する機関が、情報交換、課題の共有を行い、連携して、支援する必要がある。特に深刻化している虐待など、要保護児童等についても、行政・関係機関・地域が連携して、早期発見・早期支援を行い、子どもの生命・人権を守るため連携を強化していく。	子ども支援室
8	子ども包括支援事業	3,499,000	3,499,000	3,489,153	「子どもサポート南野川」を地域の拠点とし、子ども・子育て支援ニーズにきめ細やかに対応していく。 1 子育て支援サロンやイベントの実施 ①子育てサロン ②いっしょに遊ぼう ③いっしょに作ろう ④季節のイベントの開催 2 フリースペースの提供 3 子ども・子育て相談の実施 4 子育て自主グループなどへの貸しスペースの提供 5 子ども・子育て情報の提供 6 不登校、ひきこもり等の子どもへの居場所の提供、生活、学習支援 7 子ども・子育て支援の講座・イベントの開催	・委託先と運営会議・教育情報交換会を行いながら「子どもサポート南野川」の運営に取り組む。 ・学齢期の子どもや保護者を対象に、抱えている課題などを把握し、必要な学習会、研修会を開催する。	・子育て支援では人形劇、クリスマスなどのイベントも盛況で利用者も増えている。地域ボランティア等の協力も得られ、拠点として確実に根付いてきており、つながりが広がっている。課題のある子どもの支援は利用者が増加し必要な支援が行われた。特に不登校児の学校復学率が高いことなどから、支援方法等が注目され、教育委員会等との連携の強化が行われた。	・課題を持つ子どもたちの支援は、問題が多岐にわたり、複雑、深刻なケースが多く対応には専門的知識やスキルを持ったスタッフが必要である。利用者が増加していることや、教育分野に精通したスタッフの確保が必至のため、予算の拡充が必要である。また、学習支援が学校への復学や、自尊心の育成に効果をあげているため、今後は市の課題でもある生活保護世帯の子どもの自立支援への対応として対象者をひろげていく	子ども支援室
9	地域の子ども・子育て支援拠点の整備事業	628,000	628,000	607,625	1. 地域ニードにあわせ、よりきめの細かい支援を行うため、区内地域の特性や交通の利便性を考慮し①菅生・向丘地域に出張所②有馬・野川地域に子どもサポート南野川を子ども・子育て支援の拠点として整備する。 2. 区役所、出張所のレイアウト変更に合わせて、①安全安心なキッズコーナーの設置、②授乳室の設置、③個別の相談ブースの設置、④気楽に情報交換が行える場の提供など、子育てにやさしい庁舎環境の整備を行う	・連絡調整会議を行い、スムーズな支援室の移動を行う。 ・子育てにやさしい庁舎環境の整備や子育て支援の拠点について、関係機関と意見交換を行う会議を行う。	区役所及び向丘出張所では、来所した子どもの安全・安心に配慮したギッズコーナーの設置や子ども情報コーナーの拡充等を実施し、子連れでも来所しやすく必要な情報をタイムリーに周知できる環境が整えられた。特に向丘地区では、アンケート調査の結果を基に子育て世代の仲間づくりを推進するため、社会福祉協議会や民生・児童委員、宮前図書館等に働きかけ、向丘出張所を拠点にした親子の会を立ち上げるようになった。	平成24年度中に、社会福祉協議会や民生・児童委員、宮前図書館等と連携しながら向丘出張所を拠点とした親子の会を開始する。会の企画・運営の主体は地域住民であるが、会場の確保及びその他必要時は相談役として活動支援を行う。	子ども支援室

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
4 環境まちづくり事業									
10	花と緑のあふれる 住みよいまちづくり 事業	981,000	981,000	972,902	市の北の玄関口としての東名川崎インターチェンジ周辺の景観整備を行い、川崎のイメージアップを図ります。また、市が指定した地域緑化推進地区について、地域の緑化推進を支援します。中間支援機能を有する宮前区まちづくり協議会を通じて、区内の公園・公有地内にある花壇を自主管理している緑化活動団体に花苗などを提供することを契機として、緑化活動団体とのネットワークを構築し、緑化活動団体の活動を活性化させるとともに、区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図ります。	①年2回(春・秋)、区内の地域緑化推進地区へ花苗などを提供します。②年1回(秋頃)、区内の緑化活動団体に花苗や用土などを提供します。	緑化推進地区として、東名川崎IC前花壇を支援。春・秋各1回。 区内で活動する緑化活動団体22団体へ花苗の支援を実施。申請数が予算を大幅に超過したため、各団体への株数を調整し、用土の支援はせず、花苗のみとした。財団法人川崎市公園緑地協会と連携し、花壇についての相談会を開催するなど、物的支援にとどめず長期的な緑化へつなげる取組も行った。	川崎市公園緑地協会、道路公園センターや緑化活動団体との調整をはかりながら、今後の方針について検証をする。	地域振興課
11	ecoゴコロプロジェクト 推進事業	2,835,000	371,000	356,271	・区民の地球温暖化やリサイクルに対する意識を高めて、節電などの省エネ行動や、3Rの実践行動などにつなげる。 ・区役所庁舎で屋上緑化を行うことで、緑化推進と区民の環境問題への意識高揚につなげる。	環境問題に関するセミナーやイベントの開催、また地域に根ざしたイベント等との連携による啓発活動	6月25日の映画上映会&節電セミナーでは、定員を超える多くの応募があり、環境問題に対する区民の関心の高さが窺えた。セミナーやバスツアーでは、参加者からも高評価を得て、啓発の促進ができた。 屋上緑化については、庁舎屋上への太陽光パネル設置に伴う工事補償の関係で、実施することができなかった。	区民による実践的な活動に繋がられるよう、区民が主体的に提案していけるような体制づくりなどを行う。また、区民の意見なども取り入れながら、環境問題に関するイベントの開催などを行い、より実践行動へと促せるような意識の啓発を図る。	企画課
12	公園の魅力アピール 事業 (区民会議課題)	454,000	456,000	212,000	公園に情報掲示板を設置し、その公園で開催されるイベントの情報、その公園で活動している団体の活動情報、公園管理運営協議会からのお知らせ等を掲示することで公園の魅力やコミュニティ的価値を発信し、公園の利用促進と地域コミュニティの活性化を目指すことが区民会議から提案された。 掲示板の設置にあたっては公園管理運営協議会と管理協定を締結し、掲示板の設置は区が、掲示する情報の募集と更新、掲示板の維持管理は地域が行うものとする。	上半期は、モデル実施を行った3公園を対象に、情報掲示板の活用状況、情報発信効果、維持管理の方法等について評価・検証を行う。 下半期は、本格実施のための要綱を策定し、設置希望団体の申請受付、設置する公園の選定、団体との管理協定の締結、掲示板の設置を進める。	昨年度モデル実施を行った3公園を対象に評価・検証を行ったところ、公園によってかなり活用状況にバラツキが出て、十分な情報発信効果を確認できない部分があった。そのため、現在の方法のまま本格実施に向けた要綱を策定することは取り止め、モデル数を増やし評価項目を精査した上で、再度評価・検証を行うこととした。既設の3公園とはモデル実施への協力の覚書を延長し、新設の2公園とは新たに覚書を締結して公園情報掲示板を設置した。	掲示板を使った情報発信が、公園の利用促進や地域コミュニティの活性化という目的に即して効率的・効果的な手法であるか否かをモデル実施した5箇所の公園を対象に評価・検証した上で、次年度以降の取組の方向性や具体的な手法を検討する。	企画課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
5 地域資源活用事業									
13	みやまえロビーコンサート 開催事業	1,696,000	1,696,000	1,612,800	区役所を訪れた方々に、上質の音楽を通じてうるおいのある時間を過ごしてもらう。また、コンサートを定期的に開催することで、区民にとって身近で親しみやすい区役所の実現をめざす。1993年10月から毎月区役所2階ロビーでコンサートを開催。来場者数は毎回200人前後、毎回レベルの高い奏者を迎え様々な音楽を提供している。昨年7月7日(水)に宮前市民館ホールで開催された200回記念公演には、平日のお昼という時間帯にもかかわらず約800人が来場、室内管弦楽団の演奏などを楽しんでいた。	来場者や出演者の安全確保、昼窓業務に影響がないよう音量に配慮したジャンルの設定など、区役所のロビーという限られた空間を最大限有効に活用するための企画運営に努める。	宮前区は他区と比べて音楽事業が少ないため、定期的に開催する貴重なコンサートとして毎回多くの来場者に良質の音楽を提供することができた。バラエティに富んだ出演者を配しているため、毎回コンサートを楽しみに来庁する区民も多数おり、定期開催のコンサートとして定着している。庁舎内で開催することにより、低予算でレベルの高い出演者による良質のコンサート提供が実現している。市政だより、区ホームページ、庁舎内でのポスター掲示など効果的な広報を行った。	毎回バラエティに富んだ構成でコンサートを開催できている。来年度の区制30周年を機に、区役所2階ロビー以外でも演奏を開ける場と機会を創出する必要がある。	地域振興課
14	みやまえ太鼓ミーティング 開催事業	1,980,000	1,690,000	1,689,898	太鼓を通じて、宮前区の誇る文化が保存・伝承されていることを再認識するとともに、演奏者・来場者の交流や和太鼓グループ間の交流を図ることを目的に、区内の和太鼓グループやゲスト等による和太鼓の演奏を行います。平成11年度から、地域の伝統文化に根ざしたイベントとして開催されており、夏のイベントとして地域に定着しています。他の区では見られない、宮前区ならではの事業となっています。	イベント会場のうちわを配り、会場の冷房設定温度をあげることで節電に取り組む方法を検討していきます。被災地支援を念頭に置いた開催方法を実行委員会とともに考え実施します。ねぶたと縁のある荒馬踊りのプロである荒馬座をゲストとして招きます。同時にワークショップを行うなどして団体のスキルアップをねらっていきます。	開催テーマを「届け、太鼓に込めた復興への願い」とし、実行委員・参加団体も被災地支援を念頭に置いた企画演出、演奏を行った。うちわも前回の倍近くの枚数を作成し、ほぼ全て配布。夏の節電対策に貢献した。赤十字奉仕団による義援金を実施し、1日で約85,000円の募金を集めることができた。また、ゲストに民族歌舞団荒馬座を迎え、荒馬踊りのワークショップの成果発表として、宮崎中学校美術部の生徒に絵を張り替えてもらった「宮前ねぶた」とのコラボレーションを行い、団体のスキルアップと共に地域とのつながりを生むことができた。	実行委員会の熟練度が高く、自主的な企画・運営を行うことができる環境が年々整ってきている。出演団体同士のネットワークが活性化し、区の音楽事業の大きな特徴となっている。平成25年度には節目となる第15回を迎えるにつき、これまでの経験を活かし相応しい企画を検討していく。	地域振興課
15	みやまえ新春コンサート 開催事業	872,000	872,000	787,288	宮前区を中心に音楽活動をしている個人や団体が主体となって、相互の交流と協力でコンサートを開催し、音楽を身近に感じてもらい、芸術への意識の向上を図るために実施しています。公募した出演者により、毎年1月にクラシック音楽主体のコンサートを開催しています。演奏形態としては出演者の単独演奏ではなく「コラボレーション」によることを大きな特徴としています。毎年定員を大幅に超える入場希望があり、抽選で入場者を決定していたが、継続して希望しても当選しないという区民の声に耳を傾け、平成21年度から有料化(500円)を実施しているが、毎回公演前に全席完売となるほど人気があるコンサートです。	引き続き有料化(500円)を実施します。有料化を実施して過去2回は公演前に完売しましたので、入場料を引き上げるなどすれば完全自主運営が可能となります。市民館自主企画事業から派生した事業でもあるため、人気のあるうちに自主運営を視野に入れた方策を検討します。2012年はナポレオンのロシア遠征(1812年)から200年目となりますので、チャイコフスキー序曲「1812年」を演奏曲目として検討するなど、その年にふさわしい演奏曲目を選考します。	プログラムもオペラや交響曲など多彩で、入場者も安定しており、チケットも毎回完売するなど、人気のあるコンサートである。来場者アンケートでも公表を得ており、内容については、回答者の75.1%が「とても良い」、15.1%が「まあ良い」と大多数が良かったとの評価しており、入場料については、回答者の54.6%と過半数から安いという評価を得ている。	入場者も安定しており、チケットも毎回完売するなど、人気のあるコンサートである。当日の運営には実行委員のほかボランティアが必要であったが、実行委員会で出演者の決定、プログラム編成、楽曲アレンジが行える体制が整っている状況であり事業としても成熟して、自主運営が可能となっている。また、実行委員は市の事業の枠組みが窮屈と感じて、自分達で自由に事業を実施したいとの要望もあがっていたことから、市の事業としては終了し、自主運営を図る。	地域振興課
16	しあわせを呼ぶコンサート 開催事業	2,705,000	2,705,000	2,704,920	音楽を通じて障害者と健常者との相互理解と交流を深めるとともに、障害者の社会参加等の意欲を高めることを目的としてコンサートを実施する。コンサートの第1部は宮前区内の障害者施設・作業所に通所する方々が、ベートーヴェンの第九を原語で歌うほか、数曲を合唱する。第2部はプロの演奏家によるコンサートを行う。また、ロビーにおいて施設等が製作したパンや足拭きマット等の展示や販売を行う。	事業の企画・運営について、宮前区障害者施設・作業所等連絡会と協議のうえ実施していく。	7月以降、各施設、作業所での練習に、指導者のほかコーラスで賛助出演する方々も参加していただき、コンサート開催の準備段階から音楽を通して、障害のある方とない方の交流もできた。また、出演者は、日頃の活動や成果を発表することができ、充実感や達成感を得ることができた。また、来場者アンケートによると、出演者の熱演が元気と感動を与え、障害者に対する理解を深めることにつながっている。	障害のある方が多くの区民にふれあい、日ごろの活動を発表する場として、広く周知されるようになっている。障害のある方の社会参加と自立を促すために、今後も障害者福祉施設・作業所等連絡会との連携・協力を進め、相互理解と交流の場として発展させていく。	地域振興課
17	宮前区民祭記念イベント 実施事業	315,000	315,000	315,000	●「小さな手 大きな手 みんなで築く宮前区」を合言葉に、昭和57年の区誕生時から区民の手づくりで開催され、例年20万人を超える人々が来場している宮前区民祭。平成23年度には第30回を、平成24年度には区制30周年をそれぞれ迎えることから、節目となる区民祭において記念イベントを開催することで宮前区を活気あふれるふるさととして発展させるとともに区民の友情と連帯を育む一助とする。	従来、区民祭会場において子どもが楽しめる場が少ないとの意見を受け、「第30回宮前区民祭」の子ども向け特別企画として、フアファとミニSLを水産棟前に設置した。	平成23年10月16日(日)開催の第30回宮前区民祭において、フアファ及びミニSLを設置。フアファに800人、ミニSLに850人の利用者があった。	次年度については、区誕生30周年記念イベントとして、同様な手法により企画・実施する。	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
5 地域資源活用事業									
18	地域の魅力発信事業	209,000	2,205,000	1,867,885	<ul style="list-style-type: none"> ●宮前区の地域の魅力を区民や他の地域の住民に紹介し、より宮前区に興味を持ってもらうことで、多様な人材の地域づくり・まちづくりに向けた区政への参画を促すとともに、宮前区を訪れる人が増えることで地域経済の活性化にも寄与することを目的とする事業。 ●宮前区観光協会が任命している観光情報取材記者の活動を支援する。 ●宮前区文化調査委員会が主催する、宮前歴史ガイドを活用した区内の歴史・文化を巡るウォークイベントといった、区民による地域の魅力の再発見とその情報発信を内容とする事業を実施する。 ●宮前区誕生30周年記念事業として、宮前区まちづくり協議会と協働で、区内の直売所を紹介する農産物直売所マップを作成印刷する。 ●宮前区誕生30周年記念ビデオを制作し、活用する。 	区内の歴史的な地域資源を知ることで、地域への愛着を深めてもらうことを目的として、歴史ガイドを活用したウォーキングイベントを年数回程度開催する。自然豊かな宮前区の魅力発信と地産地消の推進を目的に、区内の身近な地域資源である農産物の直売所を紹介するマップを作成印刷する。	<ul style="list-style-type: none"> ●観光情報取材記者による活動については、取材情報が観光協会情報紙「宮前の風」(年4回発行)や川崎市ウォーカー2011-2012への提供情報に反映されるなど地域の魅力発信につなげることができた。 ●宮前歴史ガイドを作成した宮前区歴史文化調査委員会と協働し、春に3回、秋に3回のウォーキングイベントを開催した。チラシ配布等の広報に力を入れた結果、定員を超える応募が続くほどの好評を得ることができ、また、安全面を最優先に考えたコースや人員により、全6回ともけが人等出すことなく終えることが出来た。 ●農を重要な地域資源と位置づけ、平成24年度事業を前倒しし、直売所52箇所を掲載したマップを12,500部作成、各社新聞に取り上げられるほどの人気となった。 ●宮前区誕生30周年記念ビデオを制作し区内の小学校等に配布するなど今後の活用を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「宮前の風」発行など都市型観光の特徴的な取組として注目される観光情報記者の活動支援については、引き続き継続して実施する。 ●引き続き農を重要な地域資源と捉え、直売所マップを活用したまち歩きイベントを開催し、区民に地域の魅力を知ってもらう。 ●好評の「宮前歴史ガイド」を活用したウォーキングイベントの継続、宮前区誕生30周年記念としてウォーキングコースを紹介するものを作成し、平成25年度に予定している「宮前歴史ガイド」改訂印刷につなげる。 	地域振興課
19	みやまえ映像コンクール支援事業	805,000	805,000	805,000	区内の中学生に宮前区を知るきっかけとなるようなテーマでプロの映画人に指導を受けながら区内を撮影してもらう。撮影した映像をIT関連企業の方に指導してもらいながらパソコンで編集等を行い、編集映像作品の制作に挑戦する。そして、その作品をプロの映画監督などが審査を行いコンクールを実施する。	区内中学校への参加への積極的に働きかける。区内にコンクール開催を様々な方法で広報する。	区内から来場しやすいように、今年度から会場を宮前市民館にして、広報をこども文化センターや民生委員にも広げることで、昨年よりも来場者が増加した。	区内全中学校に広報や依頼をしているが、学校によって取り組みへのばらつきが見られる。学校への働きかけ方法を見直し、より多くの中学生が参加できる仕組みを考えていく必要がある。	地域振興課
20	友好都市交流事業	511,000	511,000	469,647	<ul style="list-style-type: none"> ●区政15周年事業の一つとして平成8年度から開始した長野県佐久市との友好都市交流事業を継続し、両市区の交流をさらに深めていく。長野県佐久市との交流を実施することで、互いの市にない要素を補完し合い、「個性豊かな新しい都市生活文化を創造する区」の実現を目指す事業。 ・民間交流事業委託:都市化が進む宮前区において、子供たちが佐久市での自然体験を通じ、里山保持、緑の回廊作りなどの重要性を学ぶ機会とする。運営は体験研修のプログラム作りや、参加者募集、引率など主体的に行える団体に事業委託する。想定参加者40名、1泊2日。 ・物産観光交流事業委託:両都市の観光物産交流を積極化させるため、宮前区観光協会に委託を行う。 	子どもたちが佐久市において自然体験等を行う民間交流事業及び区民祭への佐久市物産展誘致等を行う物産観光交流事業を実施した。	○民間交流事業(子ども自然交流事業)については、平瀬川流域まちづくり協議会へ委託し、8月27・28日に実施。39名の参加者を集め、多くの子どもたちが佐久市の自然とふれあうことができた。○物産観光交流については、観光協会に委託し、独自に製作したキャラクターを活用しながら、区民祭への物産展招致やりんごオーナー制度PRを適正かつ効果的に推進した。	各事業を通して、区民が佐久市の文化に触れるきっかけを提供することができ、一定の役割を果たすことができた。今後も、物産観光交流と子ども自然交流を柱として交流を推進する。	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
6 地域コミュニティ活性化推進事業									
21	まちづくり推進事業	3,953,000	3,953,000	3,952,482	まちづくり協議会が中間支援組織として、地域で活動している団体間のネットワーク化を推進し、まちづくりのつなぎ役として活動することにより、市民活動を積極的に支援します。また、活動支援金により市民活動団体の活動を維持・活動の拡大を支援します。また、市民活動団体の活動を広報紙「まちづくり広場」を通じて紹介することで、新規会員の増加を後押しします。様々な手法で市民活動団体を支援することにより、まちづくりを活性化させます。さらに、地域が抱える課題解決も取り組むことにより、区民主体のまちづくりを進めます。	①市民活動団体の活動を紹介する広報紙「まちづくり広場」を発行します。②活動資金不足に悩んでいる市民活動団体に対し活動支援金を交付します。③市民活動団体の情報収集及び収集した情報の発信を通じて、市民活動団体相互の交流を促進します。区やまちづくり協議会のホームページを通じて、協議会の活動内容や区民のまちづくり活動等を区民に発信します。④行政と連携・協働した事業を幅広く展開します。⑤区内の美しい景観・市民活動を紹介するフォトコンテストを実施します。⑥市民活動団体の活動発表の場として「まちづくり広場ラブリミヤマエ」(まちづくりフォーラム)を開催します。	①「まちづくり広場」を毎月発行、2月に創刊200号を迎えたため特別号も併せて発行し団体活動等を発信しました。②活動支援金を20団体に交付し活動の活性化を図りました。③まちづくりウォーキングを実施し区民が団体活動等に触れる機会を創出しました。ホームページ等で団体活動等を区民に発信しました。④ふれあいフェスタ等へ参加し協働事業を展開しました。⑤第6回フォトコンテストを開催し過去最高の応募者数となりました。⑥第4回ラブリミヤマエを開催し過去最高の入場者数を記録しました。	中間支援機能を有する唯一の組織として、団体活動等を「つなぐ・むすぶ」「ひろげる」「パートナーシップ」の視点で活動するまちづくり協議会と協働して取り組むことが今後も重要であり、課題解決に向けて区民主体の快適で住みやすいまちづくりを目指します。	地域振興課
22	まちづくり支援事業	2,816,000	2,816,000	2,815,050	専門性を有するコンサルタントが、まちづくり協議会及び区民のまちづくり活動に対して適切なコンサルティングを行うことで、より区民にとって暮らしやすい、魅力あるまちづくりにつなげます。また、市民活動団体は、活動資金がない、活動場所がない、活動が広がらない、活動を発展させる情報やノウハウが不足している、団体の交流がない、などさまざまな悩みを抱えており、これらの悩み解決に役立つ情報を専門的見地から提供します。	①まちづくり協議会へのコンサルティング及び会議等の運営支援を行います。②まちづくり広場ラブリミヤマエ(まちづくりフォーラム)への企画提案及び実行委員会への支援を行います。③区内のまちづくりの支援に対する助言及び提案を行います。	①ウォーキングイベントの開催や成果物等の作成過程における視覚的に分かりやすい案内チラシ等の作成や、市民活動応援カタログ第3版の企画作成等、まちづくり協議会へのコンサルティングを効果的に実施しました。②第4回ラブリミヤマエでは、12回におよぶ会議への出席をととした企画提案や当日の運営に関わる支援、当日プログラムの作成等実行委員会への支援を効果的に貢献しました。③活動団体が活性化するような仕掛け作りを中間支援機能を有するまちづくり協議会に提案・実施し、効果的に活動できました。	区民にとって住みやすいまちづくりを行うため、まちづくり協議会や区民のまちづくり活動に対して専門性を有するコンサルタントからの適切なコンサルティングは必要不可欠です。慣例慣行を改善し、委員による新しい企画を実現する際にコンサルの専門的能力への期待感は大きく、新たな企画・創造の契機ともなります。今後とも計画的な企画展開を行政・区民・コンサルの三位一体で図る必要があります。	地域振興課
23	みやまエふれあいフェスタ開催事業	1,917,000	1,917,000	1,849,898	世代を超えて楽しめる催しとすることで区としての一体感を高めるとともに、イベントに参加する団体と区民が、様々な企画での体験や会話を通じて相互の連帯やコミュニティ活性を体感する場とする。地域で活動する市民活動団体等が企画した体験・学習などの催しを通じて地域や世代間の交流を図り、地域コミュニティの創造や育成のきっかけとする。実行委員会は地域を知る機会を提供し、公益的活動を行う市民活動団体のPRの場や団体同士の交流の場とすることで、市民活動の活性化を通じた地域コミュニティの促進が期待できる。	市民活動団体のひとつである宮前区赤十字奉仕団と協力して募金活動を実施することで、市民活動団体の集合体である実行委員会と同じ目線での活動を可能にし、ユニセフ系列の団体や共同募金系列の団体と協力しながら募金活動ができる体制を整える。若い世代の活動に企画内容を沿わせる形で地域参加の機会提供や活動現場を知ってもらう場とするため、区役所最寄の中学校である宮前平中学校に事業のシンボルとなる美術作品の作成や設置を依頼する。高校生や大学生にも各企画や運営へ参加を促す。	区としては東日本大震災後初のイベント実施となった。復興支援として赤十字奉仕団と連携し募金活動を行い、約150千円もの協力を得ることができた。震災直後ということもあり、市民館ホールでの避難誘導講習の開催や危機管理連絡体制の確認もおこなった。宮前平中学校と連携し、大階段アートを作成してもらった。田園調布学園大学にボランティア依頼を出し多大な協力を得ることが出来た。	平成24年度については7月1日に「宮前区誕生30周年まつり」が開催されることから、直近のイベントである本事業は中止とする。平成25年度以降については「宮前区誕生30周年まつり」の動向にあわせて検討をする。	地域振興課
24	みやまエスポーツふえすていばる開催事業	1,969,000	1,969,000	1,706,916	従来から宮前区内で行われてきた複数のスポーツ大会をスポーツ技術の向上、健康増進という共通の事業目的のもと関連した事業としてひとつくりにするとともに、新規の大会についても企画し実施することで、区民に対してスポーツ参加意識の向上を図ってきた。歩こう会やディスカバーウォークについては、区民同士のふれあいや、高齢者や若年層の健康増進を図ることが最大の目的となっており、広報を通じ多くの参加者を集めている。	体育指導委員・青少年指導員と協力し、ニュースポーツ等の新事業への取組を検討する。	ソフトボール大会では継続して出場しているチームのほか、新たに参加するチームも増え、より多くの方が参加でき技術向上・交流の場となっている。また、ニュースポーツであるドッチビー大会では応募する小学校が増えており地域の小学生を中心に競技として広がってきている。その他、歩こう会やディスカバーウォークなど、広く参加を募り健康増進と交流を目的としてイベントでは、区民がスポーツを通じてふれあう機会ができ、区民交流の場づくりができています。	現在、事業目的は例年ほぼ達成されており、今後も幅広い世代・地域の住民に参加してもらうため、チーム編成における要項の見直しなどを行い、その他、市政だより・町会回覧等も活用し区民の健康増進にさらに寄与できるよう事業を継続する。	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

N O	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
25	地域情報発信事業 (区民会議課題)	2,909,000	2,909,000	2,709,774	イベントやお祭り・伝統行事など、地域で行われている地域活動や区が実施している取り組みなどを広く発信し、地域活動への参加を促進することで、地域への愛着や関心を高めるとともに、世代間・地域間交流、親子のコミュニケーションづくりの一助とし、地域コミュニティを活性化していく。 町内会、自治会やマンション管理組合等の住民組織に向け回覧物を一括配送し、市政情報や地域情報を効率的、効果的に発信していく。	区民ニーズに対応するため、また継続的に見てもらえる情報とするため、これまで発行してきたイベントカレンダーと同一のものにならないよう、新たな地域情報の発掘に努める。 回覧物については、より効率的、効果的な手法を検討する。	市政だより宮前区版や区ホームページなどでイベントや講座などの情報を掲載した。また、町内会・自治会の回覧物について、市・区社会福祉協議会と調整を行い、まとめて回覧物を配送していくなど、区民の負担軽減に向けての取組を行うことができた。	区民の利便性を高め、区の魅力を発信するため、イベントカレンダー「歳時記みやまえ」を発行する。町内会・自治会の回覧物については、チラシの種類を削減し情報の整理を図るなど、効果的な情報発信手法を検討する。	企画課

6 地域コミュニティ活性化推進事業

26	宮前区役所事業概要発行事業	307,000	307,000	199,500	区の事業や予算をまとめた冊子「宮前区役所事業概要」を作成し、区民に区の施策を分かりやすく体系的に周知します。	事業概要に第3期実行計画宮前区区計画を掲載し、区の主要な取組が体系的に伝わるようにする、また、必要以上に細かく記載しすぎているところは簡略化するなどの工夫を行う。来年度以降に向けて、こうした形式での行政情報の提供以外に、どのような情報発信が区民に求められているかを検討する。	わかりにくいとされる区役所の計画や事業、業務内容の全体像を一括して公開することができた。	平成19年度から5年度にわたり発行し、一定の周知ができたと考えられることから、現在の形式での情報発信は終了する。今後は、第3期区民会議からの提案である「地域コミュニティへの参加を促す雑誌」を発行することにより、「宮前区で暮らす」という視点から情報発信を行う。	企画課
27	宮前ガイドマップ作成事業	977,000	781,000	779,625	宮前区への転入居者への配布が主であるので、道路や公園などの街なみや、区内の主要施設の情報など、正確な情報を伝えることが重要であり、原則として毎年度情報の更新をするとともに、5年に1回程度の割合で全面改訂を検討する必要がある。地図によりに宮前区および区内主要施設を紹介することで、区民の利便性の向上が期待できる。また区内のスポット等を紹介することにより、宮前区への関心を高め、区のイメージアップを図ることができる。	作成にあたり、ユニバーサルデザインが適用されているかどうか、市や印刷業者以外の外部機関において審査を経たものを発行する。バス路線の変更や地図表示内容の名称変更や移転などについては常々注意をし情報収集を行いながら最新の情報にて発行する。	平成23年10月1日に発行済。1年間配布を続けるため、組織再編に伴う区役所業務の変更といった、発行時点で予測のつく変更についてもフォローできるように発行。地図については、レイヤーの表示・非表示が選択できるPDFデータの納品を仕様を組み込み、他業務でも利用することで、地図が「紙→データ」「白黒⇒カラー」での操作が可能となった。	5年に一度、改訂を検討。平成26年がそれにあたるため、3ヵ年計画には折やデザイン等を一新する金額(1,420,000)を反映している。改訂の内容は随時区民の方の反応を見ながら検討をしていく。	地域振興課
28	みやまえガイドブック改訂事業	300,000	300,000	273,870	本事業は実行委員会形式で進め、職員や一般的な編集者などが知らない情報を区民から提供を受けながら作成をする。区民目線での編集により、宮前区の魅力を深く知ることができ、これにより宮前区への関心を高め、イメージアップを図ることができる。区制30周年にあわせて平成24年度発行。それに向けて、23年度に実行委員会を立ち上げ、約2年かけて掲載事項を決定し発行する。地元区民にしかわからない情報や季節や場所を配慮した写真の撮影など最新情報に加え、公募による実行委員のセンス・インスピレーション・創造力等を活かす。	地元資源、歴史・石造物、産業・観光施設、自然環境・文化、デザイン・編集・写真撮影等、様々な分野から精通している委員を幅広く数多く集めるとともに、コンセプト(対象読者を定める)・編集方針(何を掲載するか)・今後のスケジュール等基本事項について各委員の意見要望を集約し、この1年間で掲載対象を定め情報収集に努める。	公募により、前回10名を大きく上回る17名の委員によって委員会を組織することができ、さまざまな分野に精通したメンバーが揃った。1年を通しての会議や取材活動などにより原稿執筆や台制作成等があらままとまりつつあり、翌年度デザインを固めて印刷・発行・PRなどを行う。区制30周年の冊子とするため、30周年ロゴやキャラの使用も決定している。	平成24年度に印刷・発行で事業終了。10,000部発行としているが、在庫を見ながら増刷の予算要求を検討。	地域振興課
29	シニアライフ支援事業 (区民会議課題)	1,128,000	1,126,000	597,922	シニア世代がこれまでの人生で身につけてきた知識・経験を身近な地域で活かすきっかけを提供することで、暮らしやすい地域づくりとシニア世代の居場所づくり、生き甲斐づくりを支援する。	・シニアライフ相談窓口の開設(毎週木曜の9時～12時、区役所2階ロビーで開設、出張相談も実施) ・シニア世代向け講演会の開催(市民館との共催による「大人の文化祭」での実施)	・シニアライフ相談窓口を延べ52日開設(区役所46日、出張所3日、ふれあいフェスタ1日、区民祭1日、大人の文化祭1日) ・「大人の文化祭」でシニア世代の社会参加をテーマに有識者による対談を実施 出演：大下勝巳(親父の会「いたか」世話人)、斎藤ゆか(聖徳大学准教授)、宮下敏子(かわさきFMアナウンサー) テーマ：居場所づくり、生き甲斐づくり、地域づくり 参加者：約160人	・「大人の文化祭」の趣旨や参加団体が、まちづくり協議会主催の「まちづくり広場ラブみやまえ」と重複していることから、24年度は市民主体の取組である「ラブみやまえ」に一本化する。 ・シニアライフ相談窓口は、当初の目的であるシニア世代の社会参加に関する相談が非常に少ないため、見直しを行う。	企画課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
30	多様な主体の社会参加促進事業	470,000	470,000	470,000	区内小学生を対象に、公募した区内在住の成人・高齢者を中心とした遊びの達人による伝承遊びなど素朴な遊びを伝授する場を提供する。また、公募により集めた中高生や青年のボランティアに、小学生と遊びの達人とをつなぐサポーターとしての参画を促し、全世代を対象とした世代間交流の場「あそびランド」を実施する。遊びランドの企画運営については公募による企画委員と協働により実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びの達人」と称する、各世代を代表する遊び・ゲームの名人が遊びの紹介や競技を行うことで、世代間の交流と親交を深める(けん玉・お手玉・ペーゴマなど昔あそびの提供。六角箱や折り紙、竹とんぼや、ぶんぶんごま等を作って遊ぶコーナー等) ・外遊びの紹介等の実施。 ・ホールで遊ぼう(小学生や中学生の、ダンス等の活動の発表。) 	事業当日の天候は思わしくなかったが、来場者約2,700人当日ボランティア約40人、達人約160人が集まった。当日ボランティアは中学生～大学生が大多数を占めた。	今年度は『氷』を活用したコーナーを設置。遊びを一方通行で享受されるのではなく、様々な参加者が、一体となり、共に遊びを生み出すことができた。翌年度以降は、今年度と同じ予算の中で更なる発展が期待できる。	生涯学習支援課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
6 地域コミュニティ活性化推進事業									
31	地域活動の促進に向けた人材育成及び推進体制の整備	396,000	396,000	215,997	区の生涯学習推進会議にプロジェクトチームを設置し、区における地域人材の育成と活用の方策等について定めた「地域人材育成指針」を23年度末までに策定する。また、指針づくりのために、区各課の連携によるモデル事業を実施し、その成果と課題を指針づくりの内容に反映する。 23年度は、保健福祉サービス課と連携し「保育・子育てボランティア養成講座」及び区の主要事業である「冒険あそび場」と連携した講座を実施する。	生涯学習推進会議の開催及び作業部会の立ち上げと「指針」策定作業。作業部会では、月1回程度集まり、有識者との意見交換を行い、さらに指針(素案)の庁内勉強会を行い職員の見解を反映させながら策定作業を行った。平行し庁内調整、推進会議での意見を伺い指針に反映させた。モデル事業の実施に係る関連部署との事業調整を行い、モデル事業を通じて、その分野の担い手となる地域人材を育成することができ、事業の評価・検証を指針策定に反映させた。	生涯学習推進会議作業部会を区役所内で立ち上げ、月1回程度集まり、有識者と意見交換をし、庁内の勉強会を実施し職員の見解を反映させ、素案の策定作業を行った。平行して区長、副区長、ならびに生涯学習推進会議にて素案説明を行って意見を伺い、指針に反映させ、区役所では初となる「地域人材育成指針」を策定した。モデル事業「冒険遊び場づくり講座」「こども・子育て応援ボランティア養成講座」では、区役所関連各課で連携して企画・運営を行い、講座を通じてそれぞれの分野において担い手となる地域人材を獲得することができた。	今年度は、地域人材育成の視点から留意すべき事項やその方策等を整理し、まとめた「地域人材育成指針」を策定した。次年度は、この指針に基づいたモデル事業を継続して実施することにより指針が活かされ理論と実践を通じた人材育成が可能となる。モデル事業として企画課と連携する「みやま情報サポーターズ養成講座」と、地域保健福祉課と連携する「高齢者健康づくりリーダー育成講座(仮称)」を実施する。	生涯学習支援課
32	市民活動支援拠点のネットワーク事業	1,497,000	2,972,000	2,965,131	区内の市民利用施設を活用した市民活動拠点の有効利用促進のための情報収集や発信等の機能充実を図ります。中間支援機能を有する宮前区まちづくり協議会を通じて、「活動場所がない」という市民活動団体の悩みを解決するのに役立つ、川崎西部地域療育センター、こどもサポート南野川、地域子育て支援センターふあみいゆ野川、菅生こども文化センターの4施設を新たに加え、区内の市民利用施設を紹介した「宮前区市民活動応援マップ」を作成印刷とともに、区内の支援コーナーに利用登録している市民活動団体を紹介した「みやま市民活動のなかま」を、各支援コーナー運営委員会の協力を得ながら作成印刷します。また、集会スペースが増設される向丘地区区民活動支援コーナーへは備品等の整備を行います。	区内の市民利用施設を活用した市民活動拠点の有効利用促進のための情報収集や発信等の機能充実を図ります。中間支援機能を有する宮前区まちづくり協議会を通じて、「活動場所がない」という市民活動団体の悩みを解決するのに役立つ、区内の市民利用施設を紹介した「宮前区市民活動応援マップ」を作成印刷します。また、区内の支援コーナーに利用登録している市民活動団体を紹介した「宮前区市民活動応援ガイド(仮称)」を各支援コーナー運営委員会の協力を得ながら作成印刷することにより、市民活動団体の活動内容をわかりやすく紹介でき、市民活動団体への新規加入を促進します。向丘地区区民活動支援コーナーへは備品等の整備を行いました。	区内の市民利用施設とネットワークを持つまちづくり協議会をとおして「活動場所がない」という活動団体の悩みを解決するために活動拠点32施設を明記した「宮前区市民活動応援マップ」を2,000部作成し、団体活動を後押ししました。また、活動団体とネットワークを持つまちづくり協議会をとおして152団体を紹介した「みやま市民活動のなかま」を6,000冊発行し活動団体への新規加入を促進しました。向丘地区区民活動支援コーナーにおいては、集会スペースを増設し、区民活動利用団体により一層の支援・促進を図りました。	支援コーナーの設立時期にかかわらず、市民活動に必要な機械等を引き続き備える必要があります。区内支援コーナーの事務局が異なるため、設備機器・利用料金・登録団体等の情報を統一的に集約することが効率的であり、収集した貴重な情報を活動団体等に発信することが重要です。向丘地区区民活動支援コーナーにおいては、引き続き登録団体の相互交流を支援・促進し、新規加入の増加を図ります。	地域振興課
33	みやまえカルタ制作事業 (区民会議課題)	5,572,000	4,763,000	4,716,185	・地域への愛着を涵養し地域コミュニティの活性化を目指し、幅広い世代が参加して地域のカルタ制作に取り組む。 ・平成23年度は、各中学校区のカルタを完成させ、各地域で活用していく。また、各中学校区のカルタから選考して、区のカルタ「みやまえカルタ」を決定する。 ・平成24年度には、区制30周年を迎えることから、区制30周年記念事業として、(仮称)「みやまえカルタ」を制作し、記念カルタ大会等を開催する。また、完成したカルタを地域や教育現場で活用する。	・実行委員会による、中学校区ごとの読み札、絵札案の選定及び全中学校区カルタの制作委託によるカルタの完成 ・区民祭等イベントにおいて、各中学校区のカルタのお披露目を行う。 ・実行委員会による区のカルタの選考・決定	宮前区民祭におけるジャンボカルタ大会を皮切りに、年末には全7中学校区の地域カルタが完成したことで宮前区賀詞交換会でお披露目。その後、小学校の授業でのカルタを使った地域学習や各地域でのイベント等での展示、カルタ大会を随時実施したことで徐々に広がりを見せている。カルタにごく身近なものを詠み込んでいるため、区民にとって親しみ感があることから地域からの入手希望も増えている。来年度の区のカルタの作成に向けて、読み札の市民投票を実施することで、さらに区民への意識付けとPR効果が増した。	●読み札は、24年3月下旬から4月中に、候補となる札を、区民会議フォーラムや区内施設で展示(区役所2階ロビー[3月25日～月末]、向丘出張所[4月9日～20日]、アリーナ[4月23日～30日])し、市民意見を聴取。7月頃決定予定。 ●区制30周年記念「みやまえカルタ」の制作(地域カルタから選抜)し、第31回宮前区民祭(10月開催)でお披露目予定、地域カルタ同様学校教材として活用するとともに、地域でカルタ大会等を随時開催し、普及啓発を図る。	企画課
34	宮前区誕生30周年記念事業		1,691,000	1,689,368	●区内の主要団体で組織された実行委員会と協働し、7区でも先駆的な試みとして制定した周年記念ロゴマーク及びキャラクターを活用したPRグッズの制作し、30周年記念事業の効果的なPRを行う。	記念ロゴマーク及びキャラクターを活用したグッズの製作及び区内団体への事業協力への啓発活動を実施する。	記念キャラクター「宮前兄妹」の着ぐるみ及びぬいぐるみ並びにステッカー及びパネルを製作するとともに、区内196団体に向けて30周年記念事業協力へのPR活動を行った。	次年度については、区誕生30周年記念事業として、記念式典の開催やメディア連携事業等を実施する。	地域振興課
35	魅力あるスポーツ推進事業		65,000	61,733	川崎フロンターレで様々な活動を行っている天野部長に地域に根ざしたスポーツ活動について講演をしてもらい、地域でスポーツに携わっている人たちが、今後の活動のヒントを得て、地域でスポーツ推進を担う指導者育成を目的とする。	①フロントウさぎぬまとの連携事業(グラウンドゴルフ大会、ポールウォーキング観戦ツアー等) ②トップアスリートを活用したスポーツ推進 ③新たなスポーツ施設の整備に向けた調査	様々な事業を行うことで、テレビ・ラジオ等への放送され、より多くの区民にPRすることができた。	フロントウさぎぬまとの協力関係は継続していき、より区民がスポーツに親しめる環境づくりが必要となっている。	地域振興課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の取組	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
7 区役所サービス向上事業									
36	宮前区役所BGM 配信事業	42,000	42,000	42,000	来庁者が各種手続きを行う待ち時間などに、心穏やかにかつ有意義に過ごせるように庁舎内に心なごむ音楽を流すことにより、身近で明るく、親しみのある場所として庁舎内にBGMを配信する。また、職員においても心のゆとりが生まれ、質の高いサービス提供が図れる。	その時期の季節感を十分に取り入れた音楽を委託業者と協議し、来庁者に快適な空間を提供し、待ち時間を有意義に過ごしていただく。	庁舎内にBGMを流すことにより、単に行政上の申請等を行う場としての区役所にとどまらず、区役所を区民にとって身近で明るく親しみのある場所として提供できた。	音楽配信業者の選定に十分時間を費やし、多くのノウハウをもつ業者の選定を行う。また、安価で操作等に多くの時間を必要としない作業内容を検討する。	総務課
37	バリアフリー推進事業	1,575,000	1,575,000	1,575,000	区役所サービス向上指針を策定しこれに基づく、乳幼児・妊産婦・高齢者・障害者など多くの区民に対して快適に利用できる区役所庁舎のための取組を推進する。	来庁者が安心して利用できる庁舎整備の一環として、市民広場北側の階段部分をノンスリップ化するとともに、階段であることを明確にする塗装を行う。	ノンスリップタイル化により来庁者に対する安全性および区民サービスが向上した。また、工事内容・期間・範囲等施行業者と確認を行い、仕様書等に沿って適正に工事を実施することが出来た。	庁舎内施設のバリア確認を常日頃から実施するとともに、来庁者からの指摘などを真摯に受け止めるようにする。また、庁舎改良工事については、多額の費用が見込まれ、優先順位などの議論を十分実施したうえで、箇所決定を行っていく。	総務課
38	窓口サービス向上 事業 (待合スペース環境 整備)	642,000	959,000	957,881	平成21年度宮前区協働推進事業にて設置された区民課キッズコーナーで使用している絵本の補修や交換を行う。また、老朽化及び今年度の係増設対応のために、前年度末に購入・置き換えした窓口番号札発券機の維持・管理を行う。	平成24年1月実施予定の区役所出張所機能再編に伴い待合スペースを拡張し、レイアウト変更を行う。また、絵本コーナーにおいては、老朽化した絵本の交換や補強を行い環境整備を行う。 年度当初及び区役所リフォーム事業のレイアウト変更と度重なる受付窓口の変更に対応するため、来庁者が混乱しないよう、昨年度末に購入・置き換えた窓口番号札発券機を効果的に活用する。保証期間を利用して、定期的に機械のメンテナンスを依頼し、円滑で効率的な窓口サービスの向上に役立てる。	絵本については、22冊購入し入れ替えすることができた。また、転入者に配布している「ようこそセット」に宮前区長のあいさつと区役所の事業案内を入れることができ、区民サービスの向上を図ることができた。また、窓口番号発券機の導入を行い、座って順番をお待ちいただけるようにすることで、待合環境の整備をおこなうことができた。昨年度末に置き換えた窓口番号札発券機を活用し、効率のよい窓口案内が実施できた。レイアウト変更による窓口番号の変更にも迅速に対応し、わかりやすい窓口サービスの提供に努めた。	「絵本コーナー」は区民の方に大変好評でよく利用されている。今年度2階の待合フロアーが拡張されたので、今後は本棚を購入し2か所設置しより利用しやすくする必要も生じてくるものと考えられる。 区役所リフォーム事業に伴う事務室のレイアウト変更によって、待ち合いスペースの一部がカウンターと離れたため、混雑時に来庁者が待ち合い場所で混乱することがある。今後のリフォーム事業で待ち合いスペースを再整備し、より快適で利用しやすい窓口サービスの実現に取り組む。	区民課、 保険年金課

平成23年度 宮前区地域課題対応事業評価一覧表

NO	事業名	当初予算額 (円)	最終予算額 (円)	決算額 (円)	事業の概要	23年度の実績	成果	24年度以降の事業の方向性	担当課
8 その他									
39	管理運営経費	670,000	670,000	507,156	地域課題対応事業における事務経費				
40	緊急対応費	2,226,000	34,000	0	緊急的な事業に対応するための経費				
41	地域の課題解決を図る事業提案制度事業	800,000	800,000	293,017	地域の課題を地域自ら解決していくことを目指し、区民会議から提案された課題の解決や地域の課題解決に取り組む団体等を広く募集し、区役所がその取組を委託、事業補助などの手法で支援します。	「地域の課題解決を図る事業提案制度」は、4月現在1件(「地域のたまり場」の創出)の採用があるため、提案団体との協働事業を実施します。提案は随時募集のため、提案があり次第、要綱に基づく審査等を行います。	本提案事業を通じて協働型事業ルールに基づく事業を実施することにより、区民と区役所の協働による地域の課題解決が着実に進んでいる。	提案事業の実績が上がっていることに加え、坂道を活かした地域の活力づくりなど、第3期区民会議提案に基づく課題解決の取組を推進する必要があることから、予算を拡充させる。	企画課
合計		55,400,000	55,400,000	50,604,657					